

【耐震診断の結果の公表 要安全確認計画記載建築物(奈良市内)】

建築物の耐震改修の促進に関する法律第7条の規定に基づき、公表します。

■劇場、集会場、展示場

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性	耐震改修等の予定		備考
							内容	実施時期	
1	奈良県文化会館	登大路町6番地2、34番1、82番	劇場・集会場・展示場	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_a/I_{so}=0.21$ $CtuSD=0.17$	I	耐震改修	令和5年度 (着工)	G=1.0,U=1.25

※奈良県文化会館は要緊急安全確認大規模建築物にも該当する。

■博物館、美術館、図書館

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性	耐震改修等の予定		備考
							内容	実施時期	
2	奈良県立美術館	登大路町10番地6	美術館	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_a/I_{so}=0.61$ $CtuSD=0.46$	II	耐震改修	未定	応急補強済*1 G=1.0,U=1.0
				一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版)	$I_a=0.39$ $q=0.57$	II	耐震改修	未定	応急補強済*1
				一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_a/I_{so}=0.63$ $CtuSD=0.48$	II	耐震改修	未定	応急補強済*1 G=1.0,U=1.0

*1：応急補強済とは、建築物の所有者である奈良県が応急的に補強対応したものを示す。

※奈良県立美術館は要緊急安全確認大規模建築物にも該当する。

■ポーリング場、スケート場、水泳場その他これらに類する運動施設

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性	耐震改修等の予定		備考
							内容	実施時期	
3	奈良県営競輪場1	東スタンド	競輪場	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	$I_a/I_{so}=0.81$ $CtuSD=0.33$	II	未定	未定	現在は使用停止 G=1.0,U=1.0
4	奈良県営競輪場2	ファン休憩所	競輪場	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_a=0.10 < 0.3$ $q=0.39 < 0.5$	I	除却	令和5年度 (着工)	
5	奈良県営競輪場3	西スタンド	競輪場	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	$I_a/I_{so}=0.90$ $CtuSD=0.26$	II	未定	未定	現在は使用停止 G=1.0,U=1.0
6	奈良県営競輪場4	第1払戻所	競輪場	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版)	$I_a=0.10$ $q=0.41$	I	除却	令和5年度 (着工)	
7	奈良県営競輪場5	興事務所	競輪場	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_a/I_{so}=1.0$ $CtuSD=0.65$	III	-	-	耐震性あり G=1.0,U=1.0
8	奈良県営競輪場6	バックスタンド	競輪場	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	$I_a/I_{so}=0.16$ $CtuSD=0.032$	I	未定	未定	現在は使用停止 G=1.0,U=1.0

【耐震診断の結果の公表 要安全確認計画記載建築物(奈良市内)】

建築物の耐震改修の促進に関する法律第7条の規定に基づき、公表します。

【附 表】耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu}SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu}SD$

I, 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。

II, 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。

III, 地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

※震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※Z(地域指標)は1.0とし、G(地盤指標)及びU(用途指標)は備考欄に記載する。